

平成29年度 花園幼稚園 自己評価結果書

I 本園の教育目標

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ●未来に伸びゆくこら 体験活動を豊富にさせ、子どもの持っている能力に期待し大きく育てる ●心とからだの健康 豊かな感性を養うと共に健康な身体を育み育てる ●地域の実態に即応した教育をめざして 家庭が子どもによせる期待感や願いを保育に生かし育み育てる
基本目標	<ul style="list-style-type: none"> ●みんなと仲良くできる子(豊かな人間) ●自分のことは自分でできる子(自主・自立の育成) ●考えたり工夫できる子(能力の育成・特性の伸長) ●ものごとに感謝できる子(情緒の発達) ●元気よく遊べる子(健康)

II 平成28年度の評価項目と評価

分野	項目	
園運営	1 保育活動や園行事へ保護者や地域の人々の参加が図られている	
	2 家庭や地域へ適切に情報を発信している(HPや学校との連携等)	
	3 家庭と連携した防災・防犯・交通安全等の安全教育や訓練が行われている	
教師の努力目標	4 一人ひとりを見つめ、愛情を持ってより確かな教育を目指す	
	5 豊かな心と、よりたくましい人間性を育てるために努める	
	6 豊かな感受性を持つ	
	7 子どもの立場にたって、子どもと話したり遊ぶことができる	
	8 やさしさ、きびしさ、はげましのある教育に努める	
	9 積極的に遊びに参加し、元気に遊ぶ	
園児の具体目標	10 集団生活に慣れ、ルールを守り基本的な生活習慣を身につける	
	11 どんなことも、さいごまでやり遂げ、みんなで達成感をあじわう	
	12 集団での遊びに喜びを感じ、安全に遊ぶ	
	13 思いやりのある心、命の大切さを知る	
	14 さまざまな経験をし、豊かな心を持っている	
	15 教師、友だちらと感動を常に共感している	

A: 良くできている B: できている C: あまりできていない D: できていない

Ⅲ 学校評価委員による意見 <評価委員:学識経験者1名、元保護者(元PTA会長)3名、現PTA会長1名>

- ・子ども一人ひとりに寄り添った保育ができていると思う。
- ・「チーム保育」担任の先生だけでなく、学年の先生が皆その学年の子の事を知り、理解してくれるのは、保護者としてとてもありがたい。
- ・園行事などの取り組みに、子ども達を思う優しさを感じられ、保護者が参加しやすい環境にも工夫がされていると思う。
- ・挨拶などの基本的なコミュニケーションがしっかり取られているように感じました。
- ・多数の園児に対し目を行き届かせる為に、チームワークをはかり、より良い保育に努める意識を持つことは大切だと改めて思った。
- ・防災や安全に関して、園と家庭との連携をぜひ今後とも継続していただきたい。

Ⅳ 園の反省・改善点

- ・挨拶に関して自然と定着していくよう、保育者が積極的にしていき、低学年からでも意識できるようにしていく。
- ・保護者が知りたい情報について発信していく為に、ホームページの閲覧記録や、連絡ノートからヒントを得て、保護者の要望に応えていく。
- ・子どもたちが人を信じ、安心して生活することのできる大切な土台を育てていくために、子どもたち一人ひとりを尊重し、子どもの目線に合わせ、寄り添うことのできる保育を目指していく。
- ・小さなことでも認め言葉忘れず、子どもたちの自信につながる援助をしていく。
- ・一人ひとりとの関わりを大切に、自身の知識・経験を生かしその子の個性や得意なことを伸ばしていく。
- ・遊びに積極的に参加していく中で、ルールやその場の状況等で伝えていける事柄を励ましや楽しさと共に分かち合うようにしていく。
- ・1日1日を大切に1人ひとりとより接する事ができるよう、常に心掛けて保育をしているが、思うように事が進まなかったり、子どもたちの反応がなかったりする事もある。そんな時こそ、しっかりと立ち止まり、考え、また新しいアプローチを考えていきたいと思う。
- ・保育者側がその子の基準を決めてしまうのではなく、一人ひとりに合ったスピードで成長していけるよう工夫し、援助・声掛けを行っていく。
- ・チーム保育を意識し、学年・園全体で一人ひとりをよく知り、理解していけるよう話す場を多くつくっていく。
- ・資質向上の為、色々な人と話し研修へも積極的に参加し、広い視野を持つようにしていく。
- ・ルールあそびの楽しさを味わいながら、同じ目標に向かって最後までやり遂げる気持ちを大切にしていく。
- ・達成感が味わえるまで一つのことに遊びこむ経験が出来るよう、子どもたちの発想を大切に、時間の使い方も考えていく。
- ・特定の友だちとしか関わろうとせず、集団の中に入りたがらない子には、担任が間に入って遊びに誘ったり、その子の好きな遊びを通して友だちと繋がっていきけるような援助をしていく。
- ・苦手とするものは、一緒に取り組み一歩を大切にしていく。
- ・子どもたちが興味を示した事に対して、もっと発展をさせて伸びのびと経験できるような場を作っていく。
- ・友だちとの関わりの中で、他事を思いやる気持ちを育むことができるよう、集団遊び・異年齢児の関わりを積極的に取り入れていく。
- ・子どもの成長にとって必要不可欠である遊びについて、けがをしないで遊ぶ重要さを伝え、危険な遊び方をしない(自分で考える力も必要)なことや、周りを注意しながら遊ぶなど、事故回避につなげていけるよう、健康で過ごすことの大切さを伝えていく。

Ⅴ 財務状況

公認会計士監査により、計算書類は、学校法人会計基準(昭和46年文部省令第18号)に準じて、平成29年度の経営状況及び財政状況の全てにおいての重要な点において適正に表示していると認められている。